
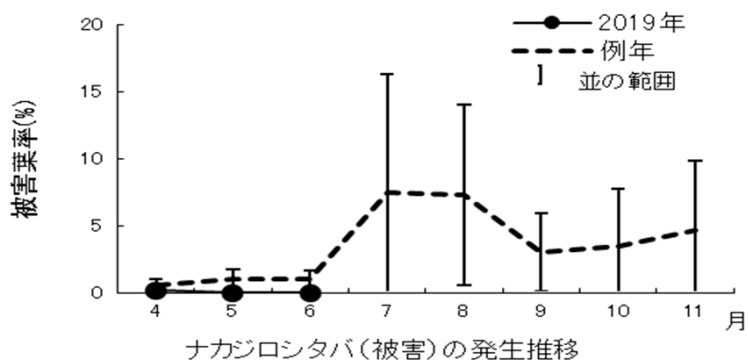
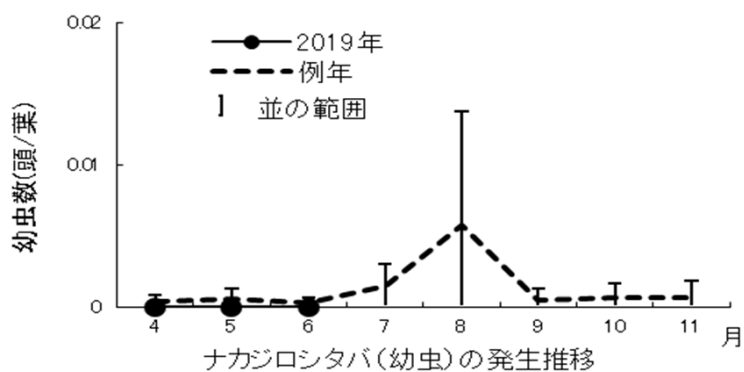



作物	カンショ	地域	沖縄群島
病害虫名	① ナカジロシタバ		
予報	7 月の発生量 (例年比)	並	
	6 月からの増減傾向	↗	
予報の根拠	6 月の発生量 (例年比)	(発生なし)並	
	その他 (気象要因など)	例年の発生量の推移 (↗)	

調査結果

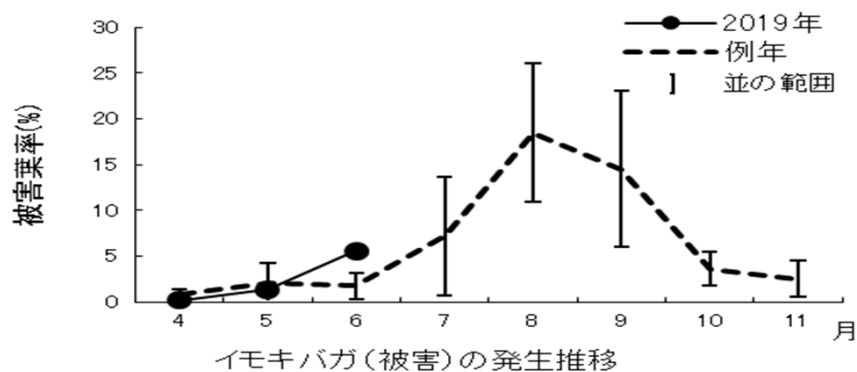
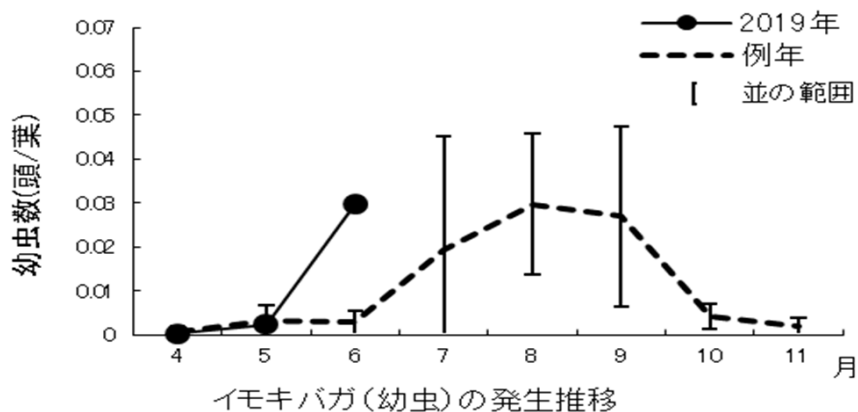


防除のポイント

- ・老齢幼虫になると薬剤の効果が低下するので、若齢期の防除が重要である。


作物	カンショ	地域	沖縄群島
病害虫名	② イモキバガ		
予報	7 月の発生量 (例年比)	多	
	6 月からの増減傾向	↗	
予報の根拠	6 月の発生量 (例年比)	多	
	その他 (気象要因など)	例年の発生量の推移 (↗)	

調査結果



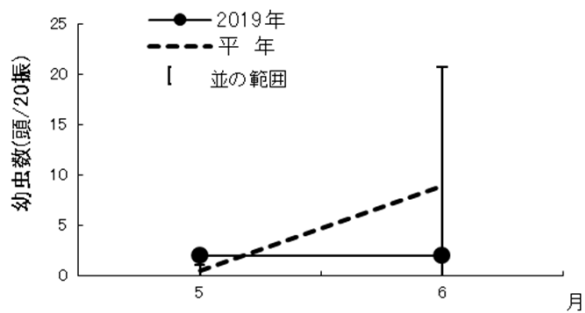
防除のポイント

- ・老齢幼虫になると薬剤の効果が低下するので、若齢期の防除が重要である。

作物	さとうきび	地域	沖縄本島
病害虫名	① バッタ類		
予報	7 月の発生量 (平年比)	-	
	6 月からの増減傾向	-	
予報の根拠	6 月の発生量 (平年比)	並	
	その他 (気象要因など)		

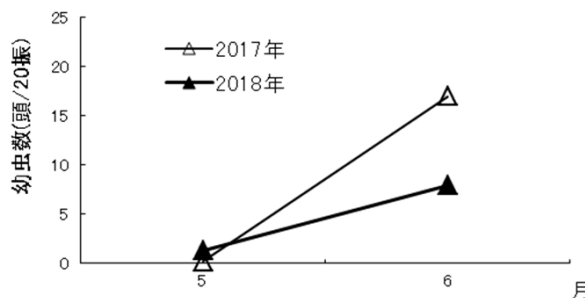
調査結果

今年と平年の推移



バッタ類の発生推移


過去2年間の推移



バッタ類の発生推移

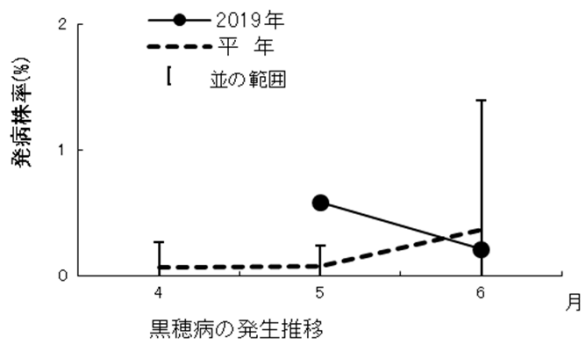
防除のポイント

- ・ 発生源となるほ場及び周辺のイネ科雑草を徹底する。
- ・ 幼虫期の防除が効果的なので、ほ場周辺の見回りを行い幼虫の早期発見・防除に努める。

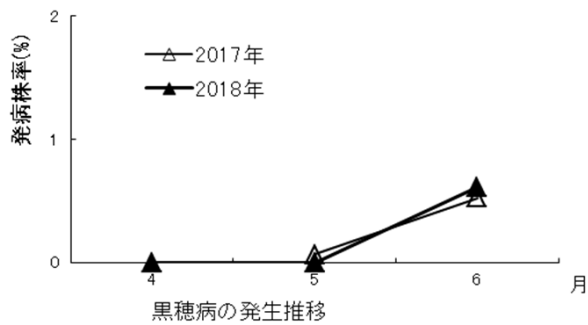
作物	さとうきび	地域	沖縄本島
病害虫名	④ 黒穂病		
予報	7 月の発生量 (平年比)	-	
	6 月からの増減傾向	-	
予報の根拠	6 月の発生量 (平年比)	並	
	その他 (気象要因など)		

調査結果

今年と平年の推移




過去2年間の推移

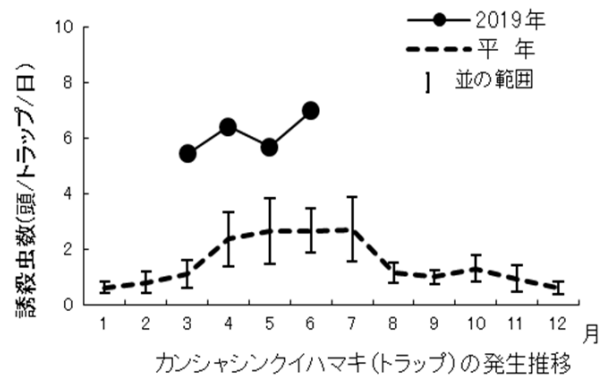
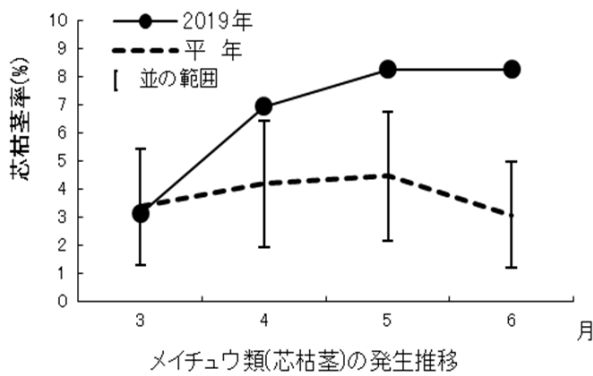


防除のポイント

- ・発生は4月頃から見られ、6～7月に多くなる。
- ・胞子の飛散を防ぐため、できるだけ鞭状体出現前に抜き取り処分する。
- ・発病ほ場やその隣接地から採苗しない。

作物	さとうきび	地域	沖縄本島
病害虫名	② メイチュウ類 (カンシャシクイハマキ)		
予報	7 月の発生量 (平年比)	-	
	6 月からの増減傾向	-	
予報の根拠	6 月の発生量 (平年比)	多	
	その他 (気象要因など)		


調査結果



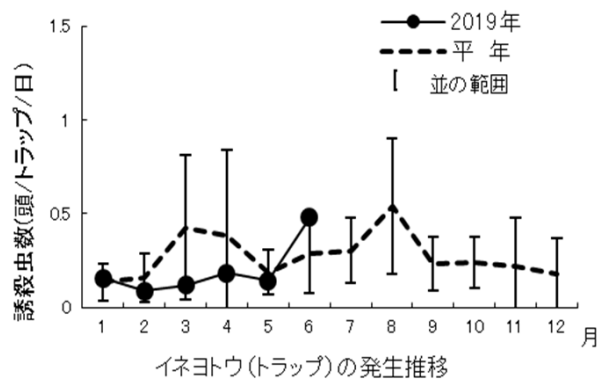
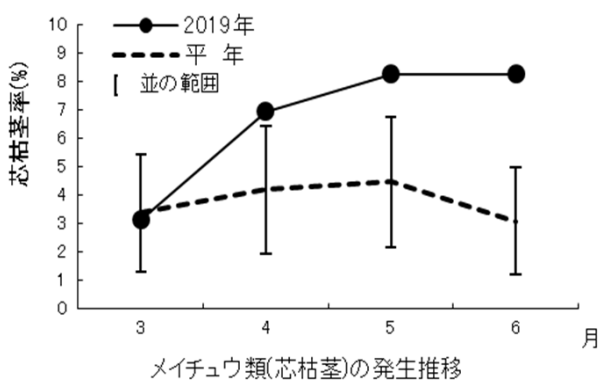
- ※ 茎内で発見したメイチュウ類 (28頭) のうち、27頭 (96%) がカンシャシクイハマキであった (沖縄本島)
- ※ 病害虫防除員 (久米島) の報告 : 多発 (メイチュウ類)

防除のポイント

- ・ ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- ・ 加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、培土時および生育初期の防除を徹底する。
- ・ ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- ・ 乳剤の場合は、葉鞘内に薬液がきちんと浸透するように丁寧に散布する。粉剤の場合は、茎と葉元の間散布し降雨や散水等により溶解させ、葉鞘内部へ浸透させることで防除効果が高まる。
- ・ 植え付け時及び培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。

作物	さとうきび	地域	沖縄本島
病害虫名	③ メイチュウ類(イネヨトウ)		
予報	7 月の発生量 (平年比)	-	
	6 月からの増減傾向	-	
予報の根拠	6 月の発生量 (平年比)	多	
	その他 (気象要因など)		

調査結果




※ 茎内で発見したメイチュウ類 (28頭) のうち、1頭 (4%) がイネヨトウであった (沖縄本島)

※ 病害虫防除員 (久米島) の報告 : 多発 (メイチュウ類)

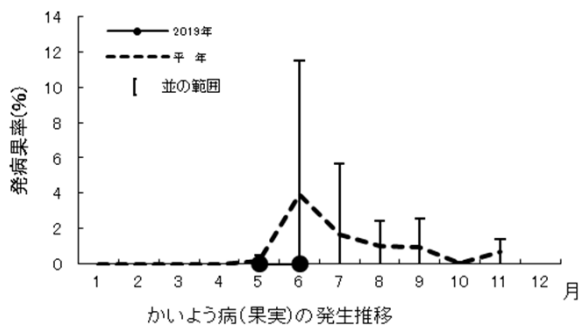
防除のポイント

- ・ ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- ・ 加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、培土時および生育初期の防除を徹底する。
- ・ ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- ・ 乳剤の場合は、葉鞘内に薬液がきちんと浸透するように丁寧に散布する。粉剤の場合は、茎と葉元の間散布し降雨や散水等により溶解させ、葉鞘内部へ浸透させることで防除効果が高まる。
- ・ 植え付け時及び培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。

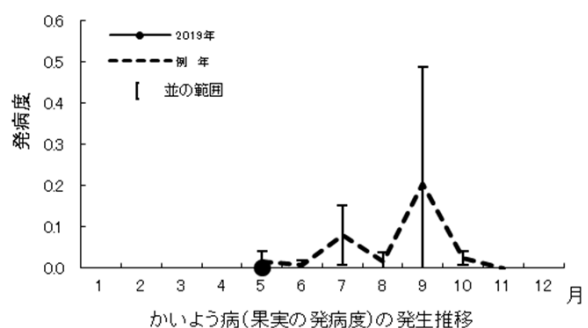
作物	かんきつ（温州みかん）	地域	沖縄群島
病害虫名	① かいよう病		
予報	7 月の発生量（平年比）	並	
	6 月からの増減傾向	→	
予報の根拠	6 月の発生量（平年比）	並	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移（↓） 6月の降水量が平年より多い	

調査結果

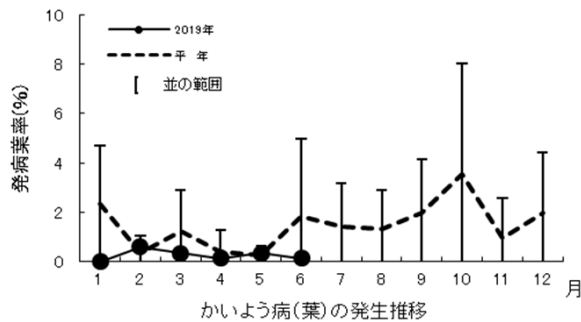
(発病果率)



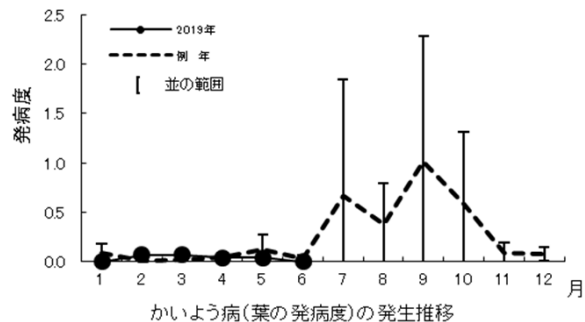
(果実の発病度)



(発病葉率)



(葉の発病度)



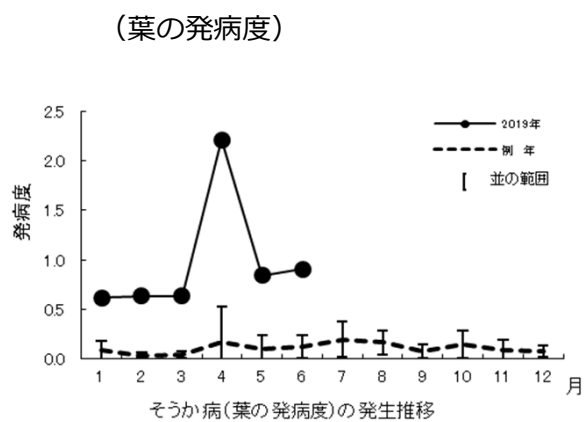
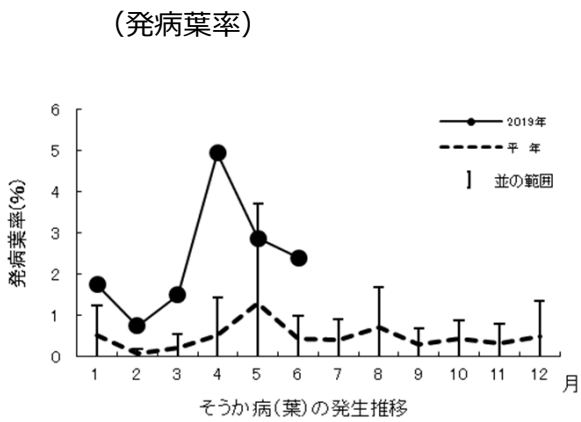
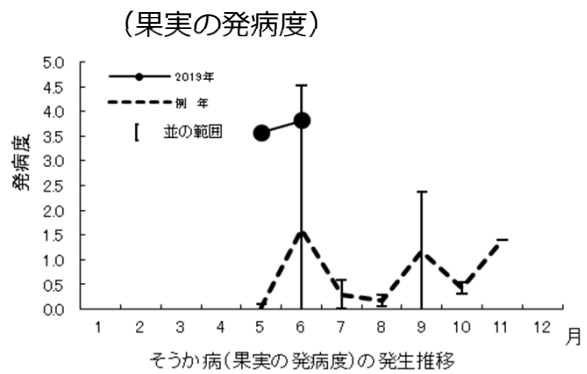
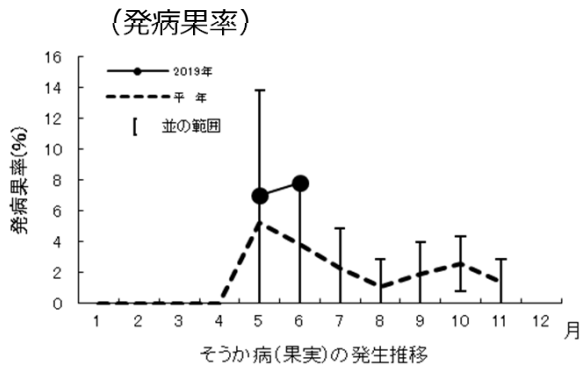
防除のポイント

- ・本病はミカンハモグリガによる食害痕から侵入しやすい。
- ・罹病枝、罹病葉を除去し、伝染源を極力少なくする。

作物	かんきつ（温州みかん）	地域	沖縄群島
病害虫名	② そうか病		
予報	7 月の発生量（平年比）	並～やや多	
	6 月からの増減傾向	→	
予報の根拠	6 月の発生量（平年比）	やや多	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移（↓） 6 月の降水量が平年より多い	



調査結果



- ・ 病害虫防除員報告：中発生（本島北部）

防除のポイント

- ・ 罹病葉・枝は伝染源になるので除去する。

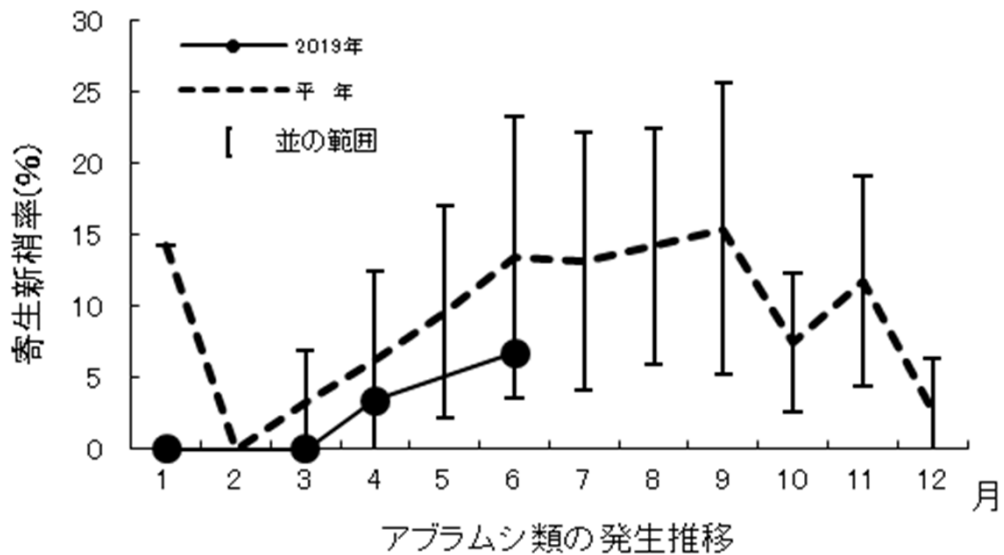


被害葉→

作物	かんきつ（温州みかん）	地域	沖縄群島
病害虫名	③ アブラムシ類		
予報	7 月の発生量（平年比）	並	
	6 月からの増減傾向	→	
予報の根拠	6 月の発生量（平年比）	並	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (→)	




調査結果



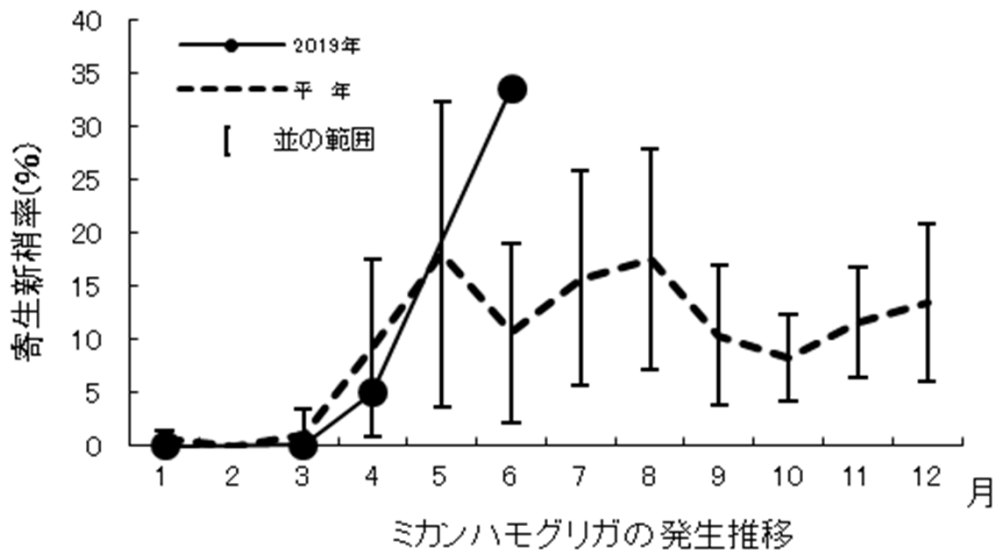
防除のポイント

- ・テントウムシなどの天敵によって本種の増殖は抑えられるが、密度が高い場合には薬剤による防除を行う。
- ・新梢や新葉に寄生する。アリを探すことで、アブラムシの発見が容易になる。




作物	かんきつ（温州みかん）	地域	沖縄群島
病害虫名	④ ミカンハモグリガ		
予報	7 月の発生量（平年比）	多	
	6 月からの増減傾向	↗	
予報の根拠	6 月の発生量（平年比）	多	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移（↗）	

調査結果

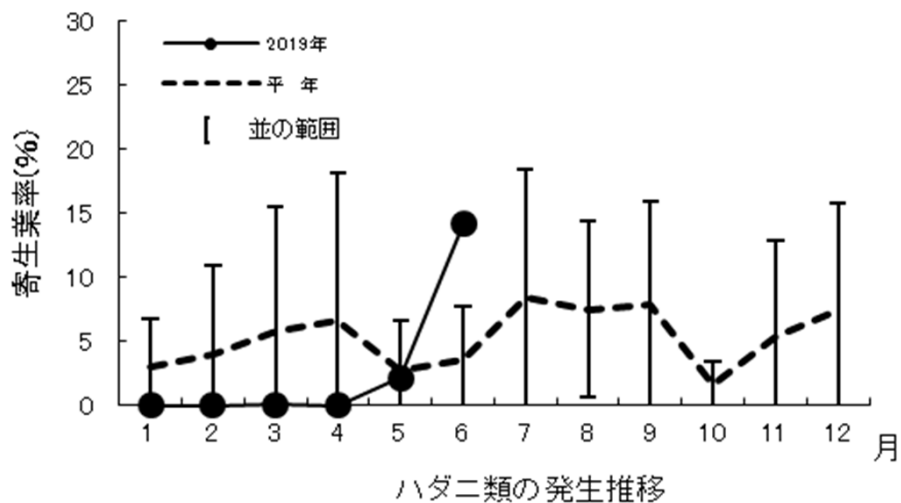


防除のポイント

- ・被害葉にかいよう病が発生しやすいため、除去に努める。

作物	かんきつ（温州みかん）	地域	沖縄群島
病害虫名	⑤ ハダニ類		
予報	7 月の発生量（平年比）	並	
	6 月からの増減傾向	→	
予報の根拠	6 月の発生量（平年比）	並	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (→)	

調査結果




- ・ 一部ほ場で多発した。
- ・ 病害虫防除員報告：中発生（本島北部）

防除のポイント

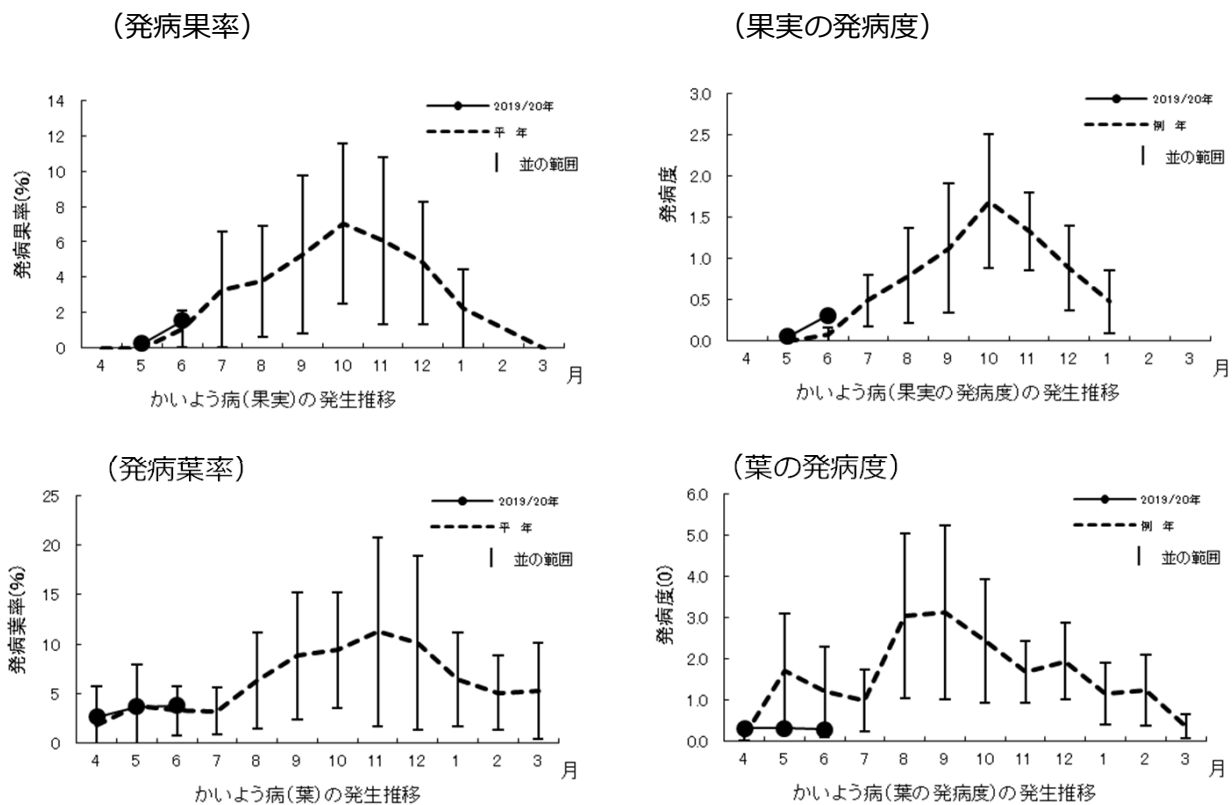
- ・ 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。



ハダニの寄生による葉のかすれ症状

作物	かんきつ (タンカン)	地域	沖縄群島
病害虫名	① かいよう病		
予報	7 月の発生量 (平年比)	並~やや多	
	6 月からの増減傾向	↗	
予報の根拠	6 月の発生量 (平年比)	並	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (↗) 6 月の降水量が平年より多い	

調査結果




- ・ 病害虫防除員報告：多発生（本島北部）

防除のポイント

- ・ 罹病枝などの病斑が伝染源となり、台風による葉や枝の傷口（風傷）は感染を助長することから、台風前後ともに薬剤防除を行う。
- ・ 本病はミカンハモグリガによる食害痕から発生しやすく、翌年の伝染源になるので、ミカンハモグリガ被害葉の除去に努める。

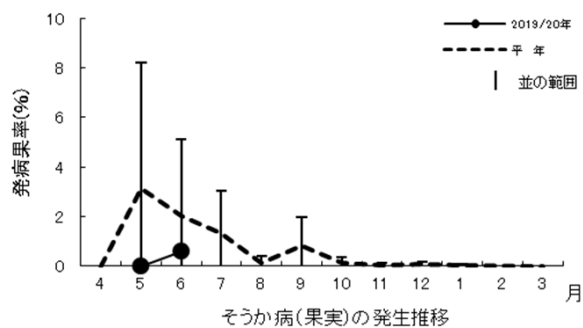
被害葉→



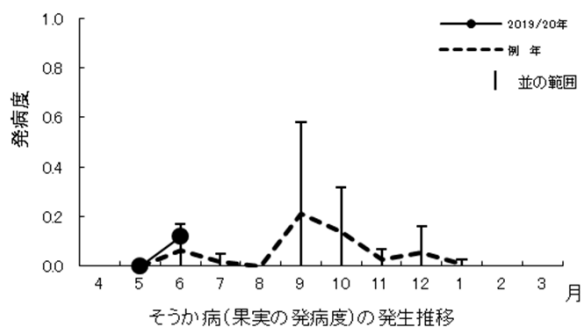
作物	かんきつ (タンカン)	地域	沖縄群島
病害虫名	② そうか病		
予報	7 月の発生量 (平年比)	並	
	6 月からの増減傾向	→	
予報の根拠	6 月の発生量 (平年比)	並	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (↓) 6 月の降水量が平年より多い	

調査結果

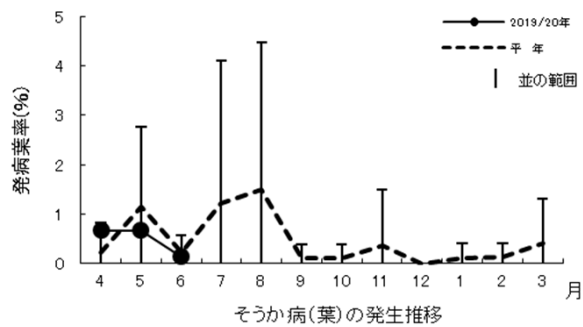
(発病果率)



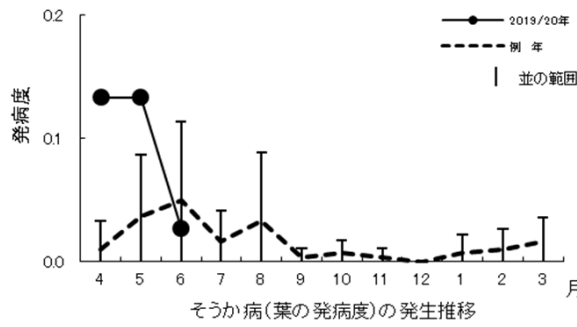
(果実の発病度)



(発病葉率)



(葉の発病度)




防除のポイント

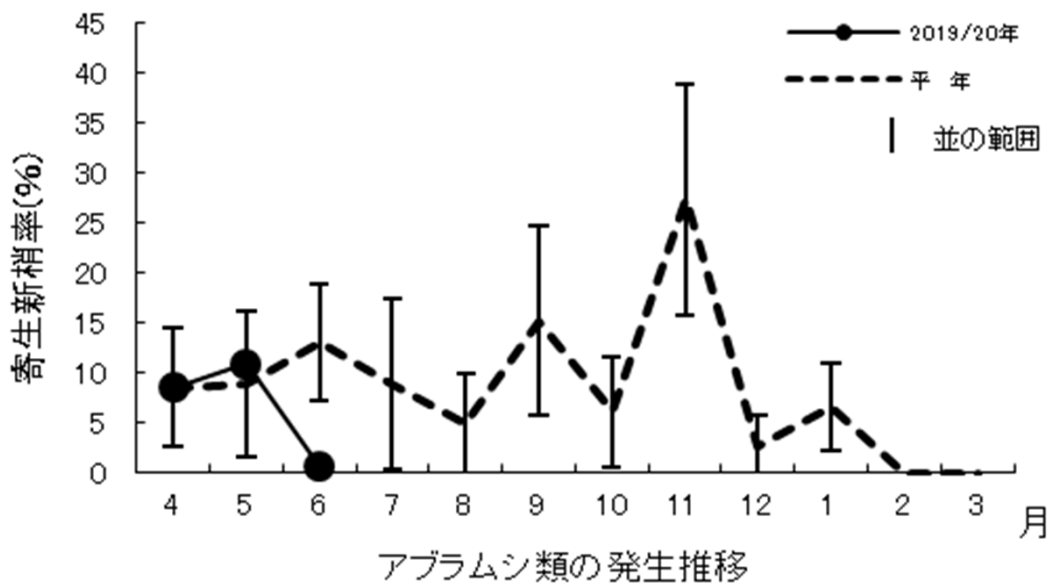
- 罹病葉・枝は伝染源になるので除去する。

被害葉→



作物	かんきつ (タンカン)	地域	沖縄群島
病害虫名	③ アブラムシ類		
予報	7 月の発生量 (平年比)	並	
	6 月からの増減傾向	↓	
予報の根拠	6 月の発生量 (平年比)	やや少	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (↓)	


調査結果



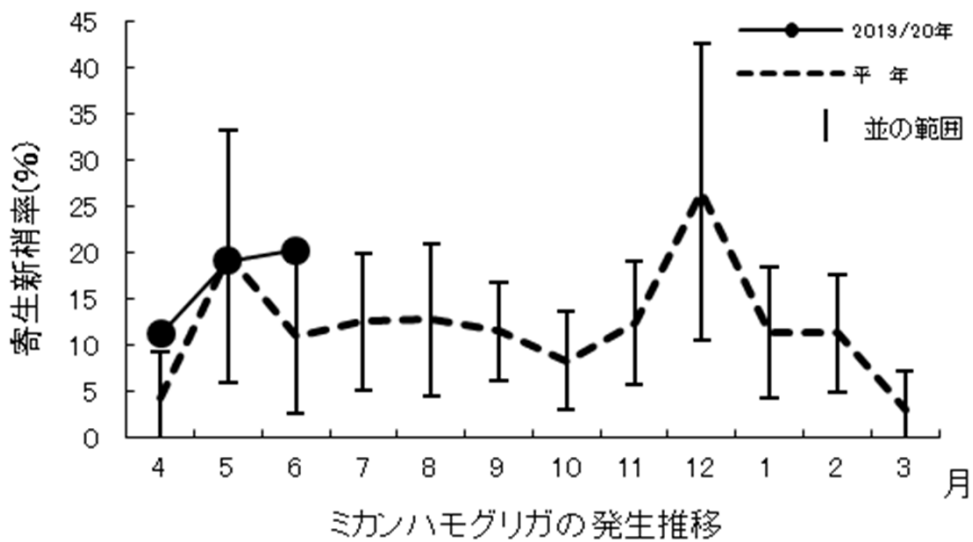
防除のポイント

- ・テントウムシなどの天敵によって本種の増殖は抑えられるが、密度が高い場合には薬剤による防除を行う。
- ・新梢や新葉に寄生する。アリを探すことで、アブラムシの発見が容易になる。




作物	かんきつ (タンカン)	地域	沖縄群島
病害虫名	④ ミカンハモグリガ		
予報	7 月の発生量 (平年比)	並~やや多	
	6 月からの増減傾向	→	
予報の根拠	6 月の発生量 (平年比)	やや多	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (→)	

調査結果

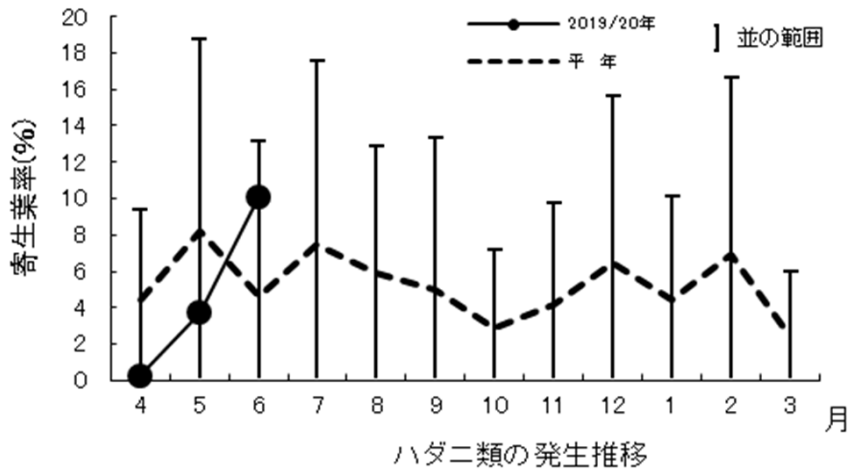


防除のポイント

- ・被害葉にかいよう病が発生しやすく、伝染源になるので除去に努める。
- ・被害が目立つ場合は薬剤による防除を行う。

作物	かんきつ（タンカン）	地域	沖縄群島
病害虫名	⑤ ハダニ類		
予報	7 月の発生量（平年比）	並	
	6 月からの増減傾向	↗	
予報の根拠	6 月の発生量（平年比）	並	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移（↗）	

調査結果




- ・ 病害虫防除員報告：中発生（本島北部）

防除のポイント

- ・ 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

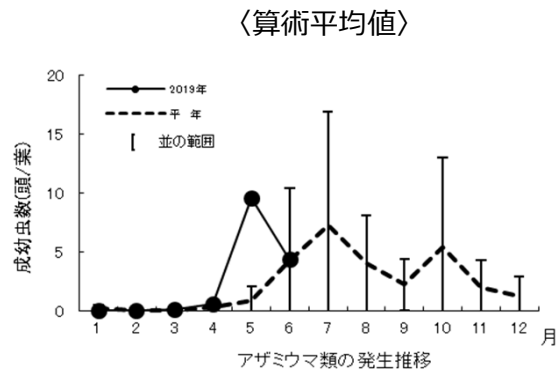
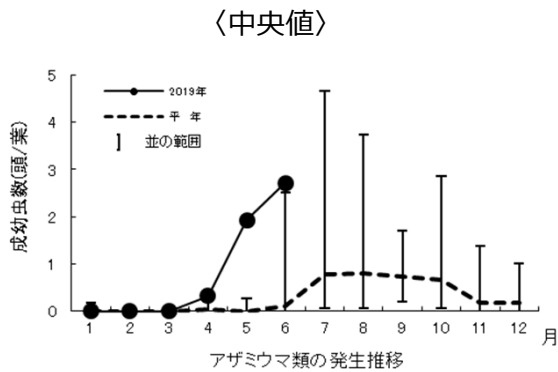


ハダニの寄生による葉のかすれ症状

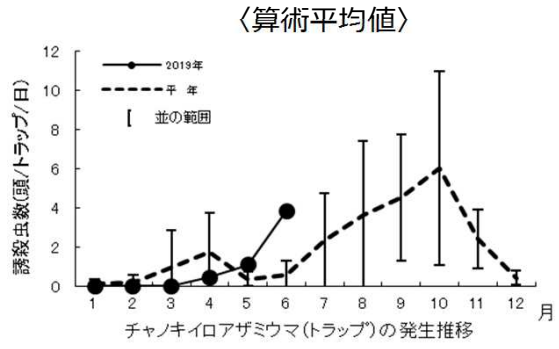
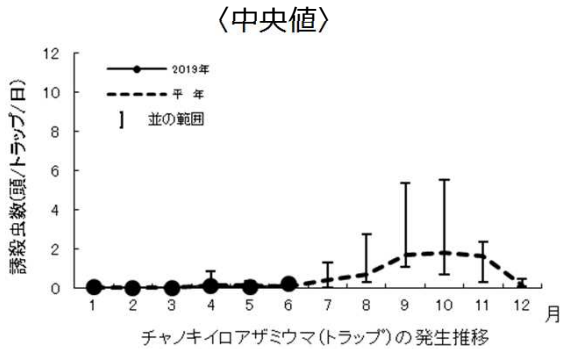
作物	マンゴー	地域	沖縄群島
病害虫名	① チャノキイロアザミウマ		
予報	7 月の発生量 (平年比)	並~やや多	
	6 月からの増減傾向	↗	
予報の根拠	6 月の発生量 (平年比)	やや多	
	その他 (気象要因など)	トラップ誘殺虫数が平年並 平年の発生量の推移 (↗)	

調査結果

(見取り調査)



(トラップ調査)




・ 病害虫防除員報告：中発生（本島北部）

防除のポイント

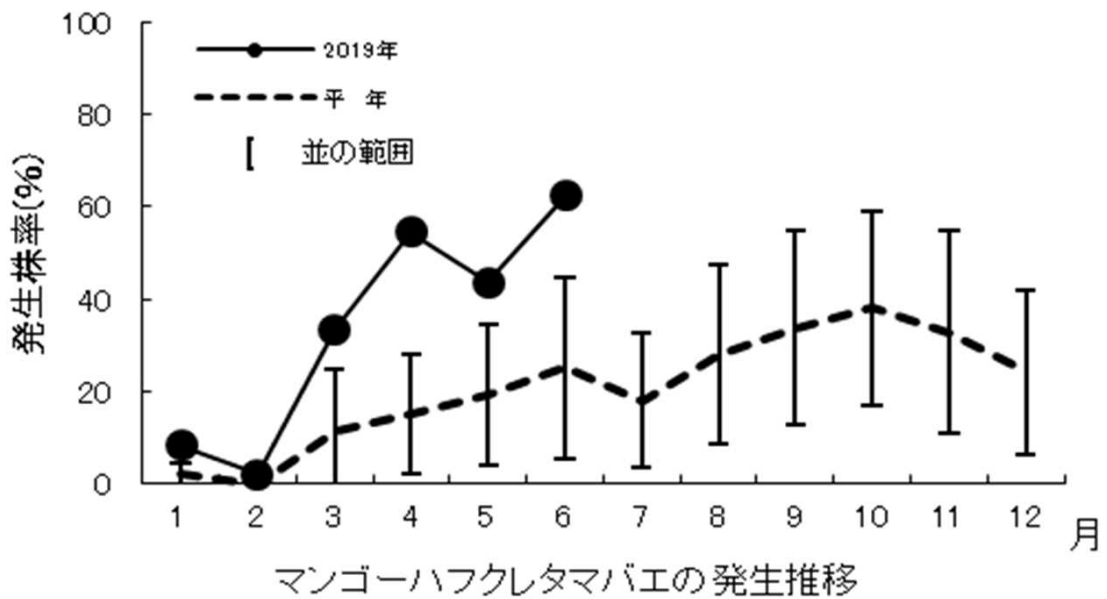
- ・ 不要な新梢は本種の発生を助長するので、早い時期に除去する。
- ・ 収穫期に発生が多かった施設では、せん定終了後に薬剤による防除を行う。
- ・ コミカンソウ類など、発生源となる施設内外の雑草を除去する。
- ・ 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。



ナガエコミカンソウ

作物	マンゴー	地域	沖縄群島
病害虫名	② マンゴーハフクレタマバエ		
予報	7 月の発生量（平年比）	やや多	
	6 月からの増減傾向	↓	
予報の根拠	6 月の発生量（平年比）	やや多	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (↓)	


調査結果



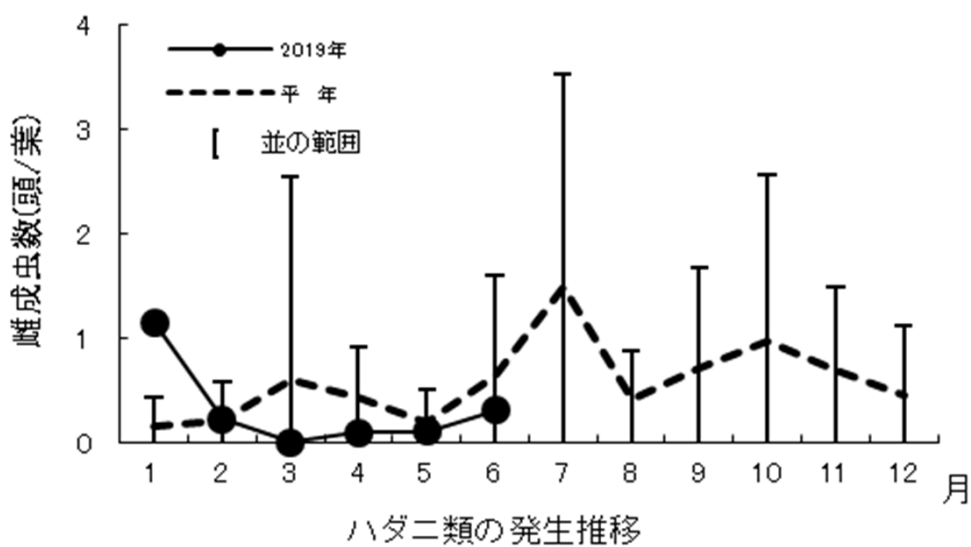
- ・ 被害新梢率：24.3%
- ・ 発生施設率：87.5%（平年40.0%）

防除のポイント

- ・ 幼虫は、新葉から新梢の軸までの柔らかい組織内に潜行して食害し、成熟すると飛び出し、地面に落下して蛹化する。
- ・ 不要な新梢は本種の発生を助長するので、早い時期に除去する。

作物	マンゴー	地域	沖縄群島
病害虫名	③ ハダニ類		 <p>シュレイツメハダニ</p>
予報	7 月の発生量 (平年比)	並	
	6 月からの増減傾向	↗	
予報の根拠	6 月の発生量 (平年比)	並	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (↗)	

調査結果




- ・ 発生種：シュレイツメハダニ、マンゴーツメハダニ
- ・ 発生施設率：50.0% (平年42.2%)
- ・ 新梢での寄生雌成虫数：0.1頭以下 (発生種：シュレイツメハダニ)
- ・ 病害虫防除員報告：中発生 (本島南部)

防除のポイント

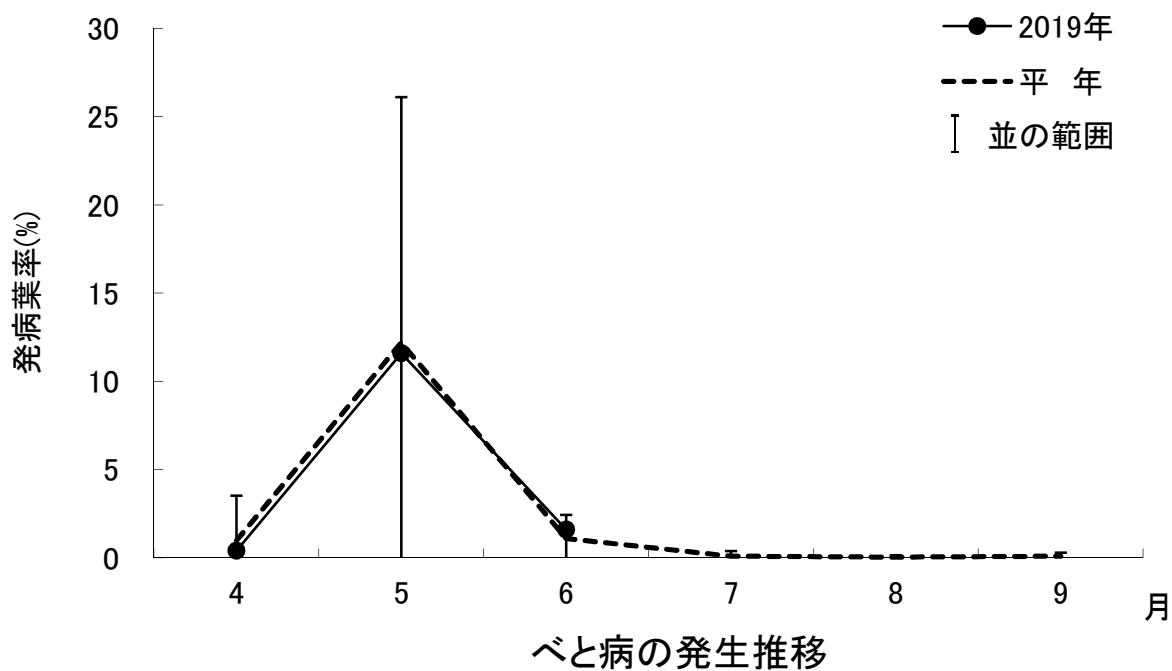
- ・ 収穫終了後の防除を徹底する。
- ・ 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。



ハダニの寄生による葉のかすれ症

作物	へちま	地域	沖縄群島
病害虫名	① ベと病		
予報	7 月の発生量 (平年比)	並〜やや多	
	6 月からの増減傾向	→	
予報の根拠	6 月の発生量 (平年比)	並	
	その他 (気象要因など)	6 月の降水量が平年より多い	

調査結果



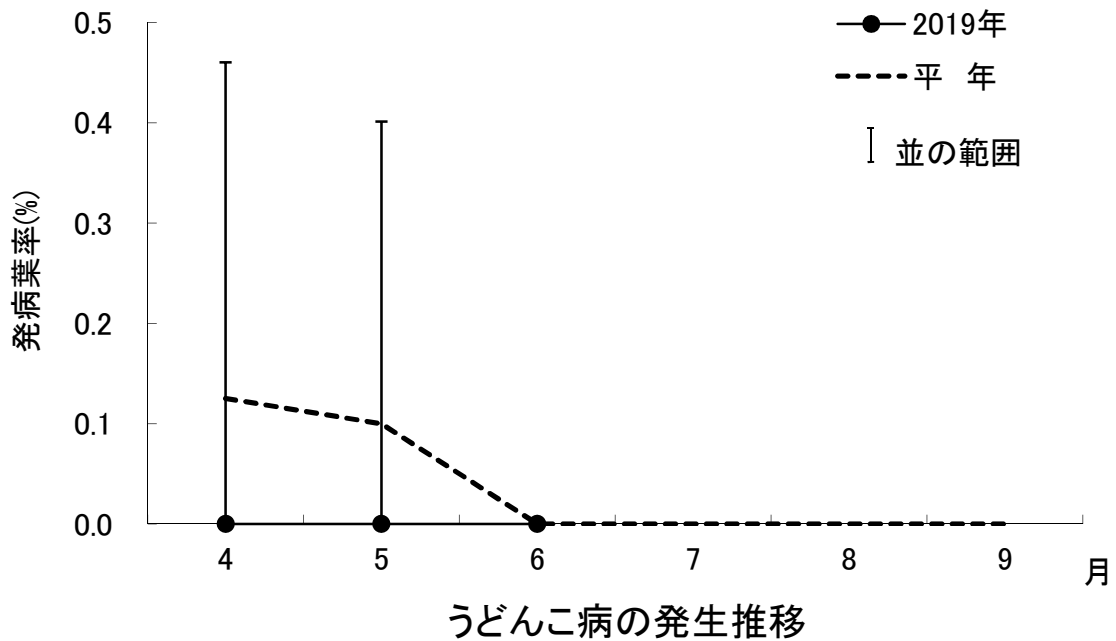
防除のポイント

- ・ 気温が10～25℃で多湿条件下で発生しやすい。
- ・ 老化した葉を除去し、採光・通風を良くする。
- ・ 適正な施肥管理を行う。




作物	へちま	地域	沖縄群島
病害虫名	② うどんこ病		
予報	7 月の発生量 (平年比)	並	
	6 月からの増減傾向	→	
予報の根拠	6 月の発生量 (平年比)	(発生なし)並	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (→)	

調査結果

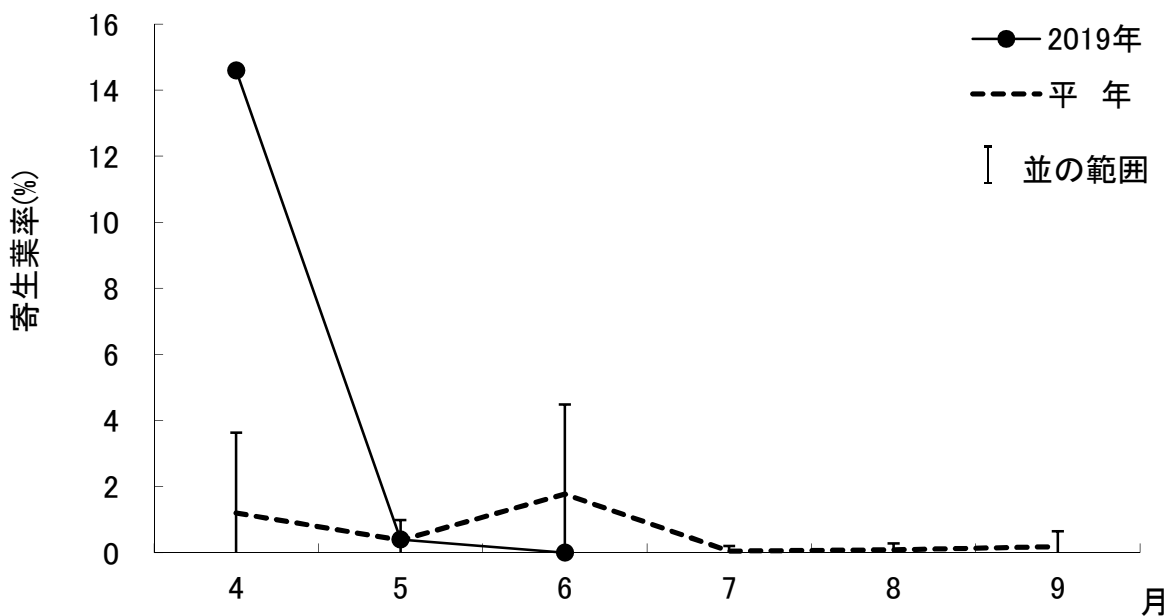


防除のポイント

- ・ 老化した葉を除去し、採光・通風を良くする。
- ・ 窒素質肥料の多施用は避ける。
- ・ 発病初期から登録薬剤を散布する。

作物	へちま	地域	沖縄群島
病害虫名	③ ハモグリバエ類		
予報	7 月の発生量 (平年比)	(発生なし)並	
	6 月からの増減傾向	↘	
予報の根拠	6 月の発生量 (平年比)	並	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (↘)	

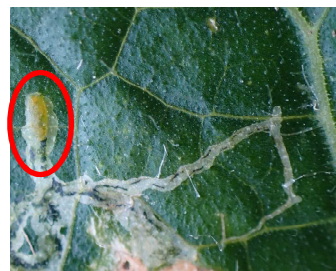
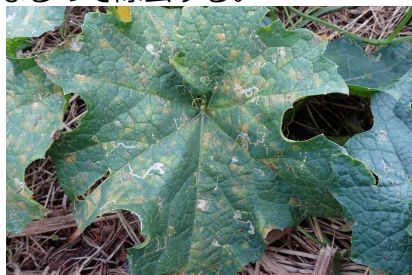
調査結果




ハモグリバエ類の発生推移

防除のポイント

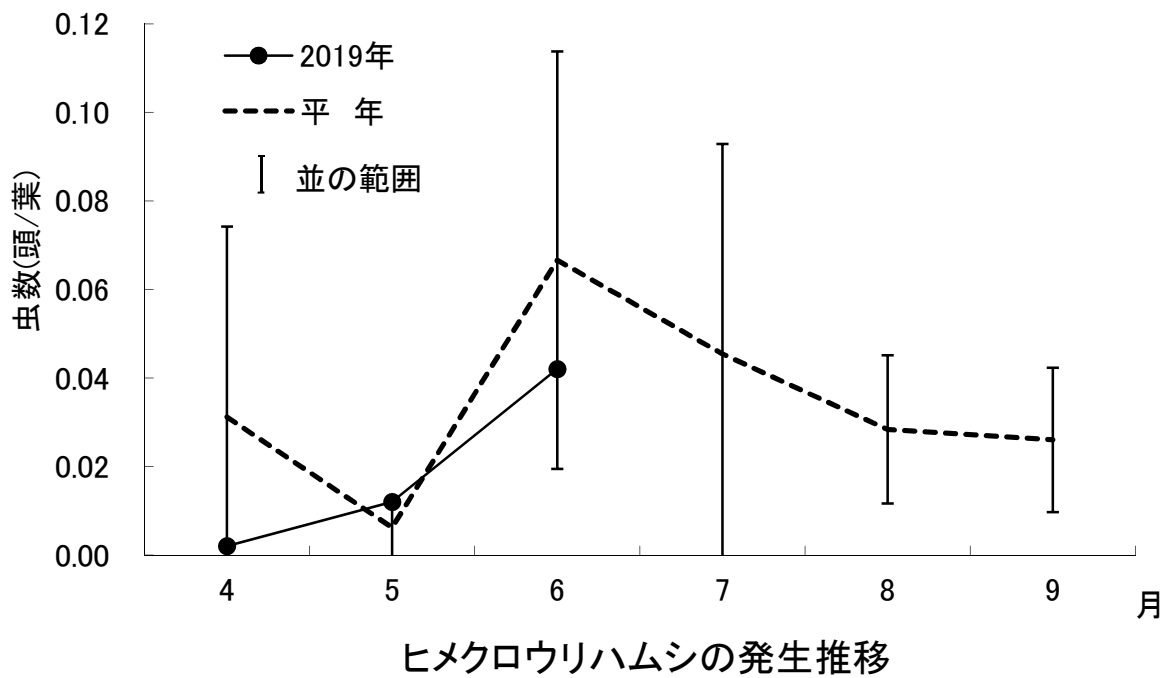
- ・ 本種の寄生痕から病害が侵入する可能性があるため、発生初期の防除を徹底する。
- ・ ほ場周辺の雑草は本種の発生源になるので除去する。



幼虫


作物	へちま	地域	沖縄群島
病害虫名	④ ヒメクロウリハムシ		
予報	7 月の発生量 (平年比)	並	
	6 月からの増減傾向	↘	
予報の根拠	6 月の発生量 (平年比)	並	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (↘)	

調査結果

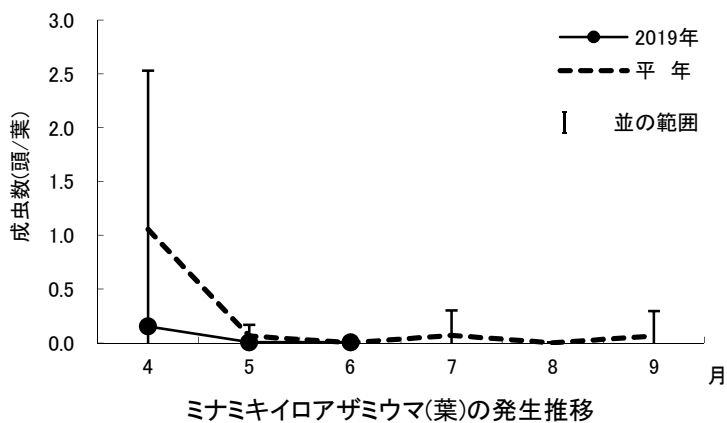
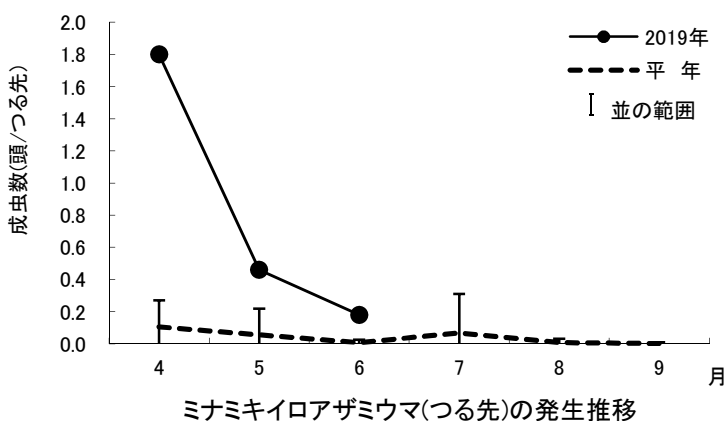


防除のポイント

- ・シルバーテープなど光反射資材を利用し、成虫の飛来防止に努める。
- ・ほ場内外のウリ科雑草は発生源になることから、根も含めて除去する。
- ・産卵防止のため、地際部をシートなどで覆う。
- ・動きの鈍い午前中に成虫を捕殺する。


作物	へちま	地域	沖縄群島
病害虫名	⑤ ミナミキイロアザミウマ		
予報	7 月の発生量 (平年比)	多	
	6 月からの増減傾向	→	
予報の根拠	6 月の発生量 (平年比)	多	
	その他 (気象要因など)	つる先の平年の発生量の推移 (→) 葉の平年の発生量の推移 (→)	

調査結果

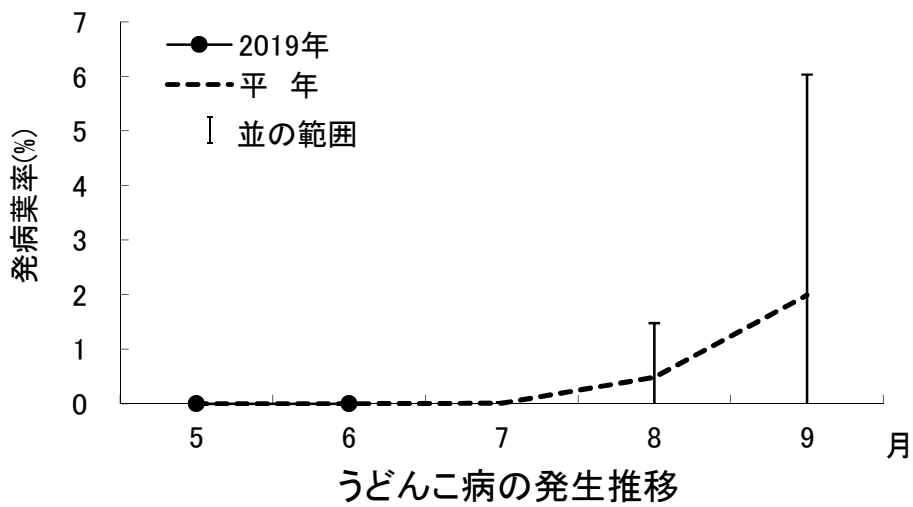


防除のポイント

- ・ 葉裏に多いことに留意しながら、丁寧に薬剤散布する。
- ・ 多くの雑草に寄生するため、ほ場内外の雑草除去に努める。
- ・ 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。


作物	オクラ		地域	沖縄群島
病害虫名	① うどんこ病			
予報	7月の発生量（平年比）	並		
	6月からの増減傾向	→		
予報の根拠	6月の発生量（平年比）	(発生なし)並		
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (→)		

調査結果

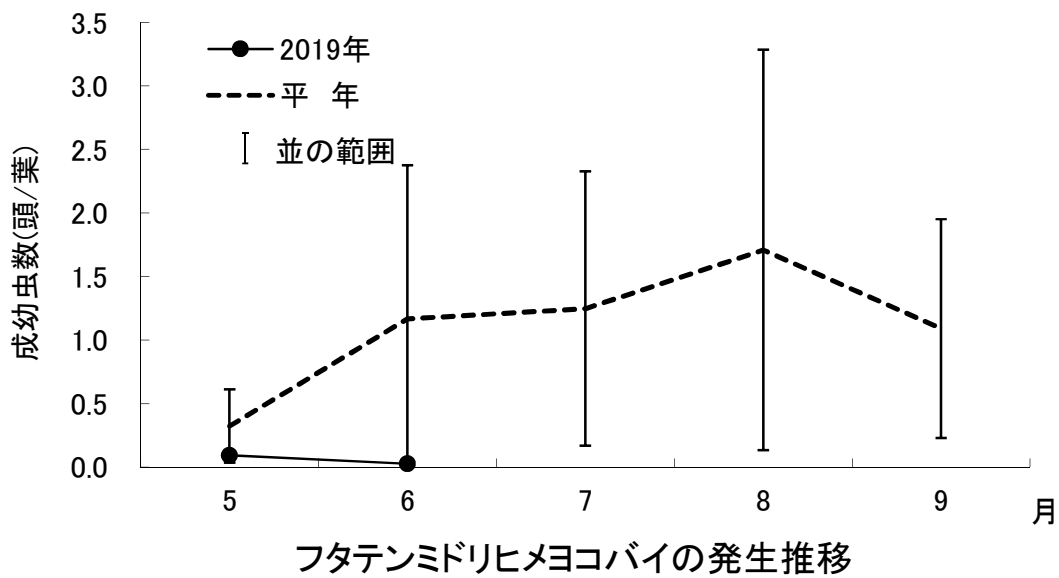


防除のポイント

- ・ 下位の罹病株や残葉は速やかに除去し、風通しを良くする。
- ・ 窒素過多にならないようにする。
- ・ 草勢を維持し、適切な施肥管理を行う。


作物	オクラ		地域	沖縄群島
病害虫名	② フタテンミドリヒメヨコバイ			
予報	7 月の発生量 (平年比)	並		
	6 月からの増減傾向	→		
予報の根拠	6 月の発生量 (平年比)	並		
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (→)		

調査結果

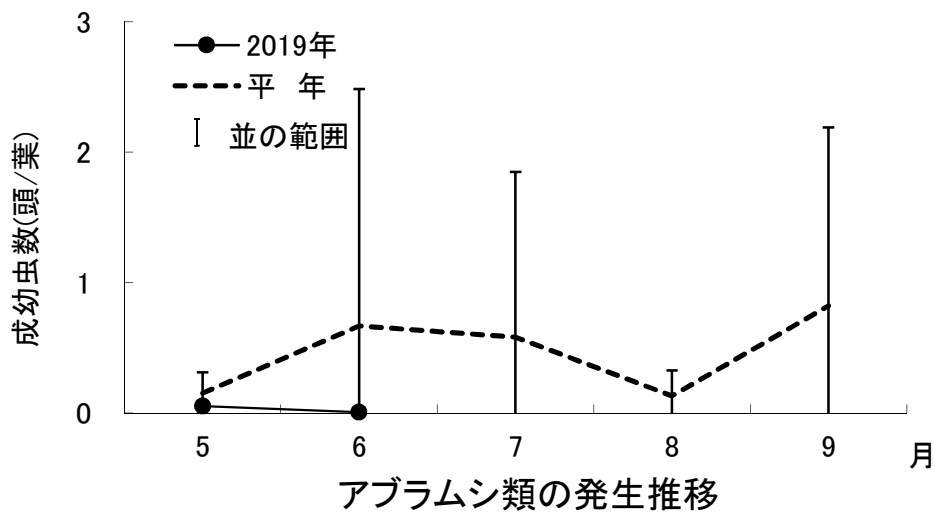


防除のポイント

- ・多発すると被害葉は黄変萎縮するので、葉裏を観察し、早期発見・防除に努める。


作物	オクラ	地域	沖縄群島
病害虫名	③ アブラムシ類		
予報	7月の発生量（平年比）	並	
	6月からの増減傾向	→	
予報の根拠	6月の発生量（平年比）	並	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (→)	

調査結果

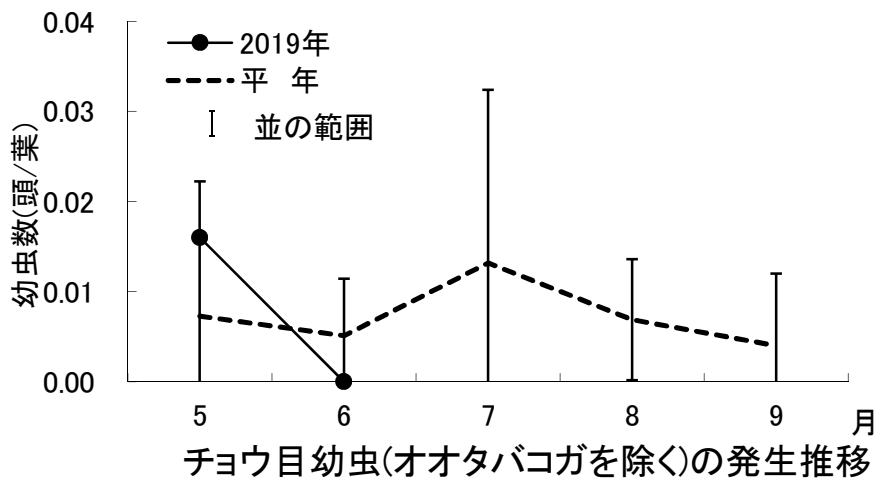


防除のポイント

- ・多発すると新葉の萎縮や芯止まりにより生長が阻害されるため、葉裏をよく観察し、早期発見防除に努める。
- ・発生源となるほ場内外の雑草を除去する。

作物	オクラ		地域	沖縄群島
病害虫名	④ チョウ目幼虫(オオタバコガを除く)			
予報	7月の発生量(平年比)	並		
	6月からの増減傾向	↗		
予報の根拠	6月の発生量(平年比)	(発生なし)並		
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移(↗)		

調査結果



防除のポイント

- ・発生密度が低い場合は、捕殺が有効である。
- ・葉裏の幼虫に対しては薬剤効果が低減するので、若齢幼虫期のかすり状被害を発見したら、速やかに薬剤を散布する。

